



地域おこし協力隊

さぬきの輪 TIMES 14

さぬきの輪 TIMES 14

目次

4 伝える人 特集

三豊市 地域おこし協力隊
古市 綾美

小豆島町 地域おこし協力隊
本田 美咲

6 三木町 地域おこし協力隊 芳田 裕美

8 土庄町 地域おこし協力隊 児戸 源太

10 絆をつなぐ 地域おこし協力隊OBOGを訪ねて 三豊市 地域おこし協力隊 OB 高島 正彦

12 地域をつなぐ 香川県のローカルを導く人 戸井 裕孝

14 県協力隊が撮ったフォトコーナー

16 復刻版!行政担当者のホンネ。 坂出市・土庄町・さぬき市・善通寺市・琴平町

18 さぬきの輪の活動

19 活動場所



さぬきの輪TIMESは、地域おこし協力隊を中心に香川県内で地域活性化に取り組む人々を紹介する冊子です。

都会から移り住み、地域おこし活動を行う地域おこし協力隊。その活動内容は様々ですが、それぞれの得意分野を活かし、地域の方をはじめ、多くの方々に支えていただきながら、互いに協力し合って活動しています。香川県の地域おこし協力隊がどのような活動をしているのかを知り、より身近に感じ、応援していただけたらと思います。香川暮らしの魅力と共に、彼らの等身大の姿をご覧ください。



今回のテーマは、一次産業

香川県内では、一次産業に携わる地域おこし協力隊があります。実際に担い手としてなる協力隊もいれば、サポートする協力隊、情報発信する協力隊など、その関わり方は様々です。今回は、そうした一次産業に携わる協力隊を紹介します。



小豆島町 地域おこし協力隊
本田 美咲 Honda Misaki

東京都出身。大学4年の就職活動中に料理人になると決意。都内有名店から街場のレストランまで幅広い場で修業。夫婦ともにニュージーランドのワインを取り扱うお店で働いたことがきっかけでニュージーランドのワインが好きになる。ニュージーランドワインを扱った飲食店を開業したいと思い、2023年に夫婦で小豆島へ移住。

地産地消のために

夫婦で飲食店を東京都内で開業することを目標としていましたが、新型コロナウイルス感染症により飲食店が大打撃を受けたことで、都内以外での開業を考え始め、小豆島が候補に挙がりました。現地を訪れた際には、島内で魚介類があまり出回っていないなどの水産業の実情を目の当たりにしました。移住してすぐにお店を開きたいと思いましたが、知らない土地でいきなりお店を開くのは難しく、飲食業界に携わる者として、元々水産業などの地場産業に興味があったことから、水産振興をミッションとする小豆島町の協力隊に応募し、移住しました。

現在は小豆島町の水産業の魅力発信活動を行っています。実際に漁師さんを体験取材し、「普段見ることのできない水産業」の現場をSNS等で発信しています。

魚の消費量が減っている原因の1つとして、ライフスタイルの変化により調理法が分からないという問題があります。そこで、魚料理のレシピ開発をしたり、魚のさばき方を教える料理教室を開催したりしています。教室では、初心者でも鯛をまるまる1匹さばいてもらっており、多くの方に魚をさばく楽しさを感じ、自信をつけてもらいたいと思っています。

私の協力隊の活動も終盤になってきました。現在は、店内飲食もできるお弁当や惣菜のテイクアウトのお店の開業に向けて、準備を進めています。今後も小豆島の恵みを活かした「地産地消」の取組みを行っていきたくです。



鯛をさばく様子

活動地の楽しみは？



新鮮な魚介類をはじめ、その地の食材や調味料が身近にあることはとても贅沢だと感じます。それらをふんだんに使用した料理を作り、夫婦で楽しむのは至福のひとつです。

三豊市 地域おこし協力隊
古市 綾美 Furuichi Ayami

地方大学を卒業後、関西でWEB・広告などの制作ディレクターとして勤務。仕事と並行して芸術大学へ入学し、デザイン科を卒業。地方自治体や大学などのクリエイティブ案件に携わる中で、「自治体の中に入って制作をしたい」「学んだことを地域に還元したい」と思い、2022年8月に三豊市農林水産課の地域おこし協力隊に着任。



クリエイティブの可能性

地方出身の私は、学生の頃まで早く都会へ出ていきたいと思っていました。実際に都市部で就職し、憧れだったクリエイティブ業界で仕事を学びました。

もっとクリエイティブの仕事で役に立ちたいと思っていた時、三豊市で農林水産物のプロモーションを担当する地域おこし協力隊の募集を目にしました。年齢や職種にかかわらず、その人のもつ志を尊重し応援し合いながら前に進んでいる三豊市の人々を見て、私の地方に対する印象は大きく変わりました。

私自身、都市部でデザインを学んだことで、視野が広がり視点が変わり、地域で頑張りたいと思っている人を活かすことが地域の可能性を広げるのだと気づきました。

デザインやクリエイティブとは、情報を新たな視点で整理し、伝えるべきことを伝える形で表現する作業です。感性の高い人のためのものと思われがちですが、情報が溢れる現代ではとても大切な全ての人に開けた道具だと思っています。

クリエイティブは、都会や地方関係なく、頑張る人の味方であるべきです。私の仕事が頑張る三豊市の役に立てるのか試してみたいと思い、三豊市の地域おこし協力隊に着任することにしました。

1年目は、三豊市認定の地域産品ブランドである“みとよのみ”の広報・販促活動に関わりました。魅力的な認定品とその生産者の努力を知ってもらうため、ウェブサイトの刷新や、マルシェのプロモーションに取り組みました。サステナブルな



自ら畑に出向き、生産者さんの声を聴きながら、現場で魅力発信の素材を探しています

“みとよのみ”認定商品を購入してもらい、「地域のために」と活動する生産者の方々の支援に繋がりたいと考えています。

三豊市の協力隊としてクリエイティブ業務に携わることで、今までクリエイティブやブランディングに縁のなかった生産者の方々に、多くの人に魅力を伝えることのメリット等を知ってもらいたいです。そんな思いから、これまでの経験を活かした新たな取組みとして、三豊市内の事業者を対象に、地域に開けたクリエイティブ相談窓口の運営を始めます。WEBやSNSの運用、食品パッケージのデザイン、プロモーション方法などの相談に対応する予定です。

この先、協力隊を卒業した後も地域をよく観察し、挑戦する人に伴走し、持続可能なまちをつくる者として、地域に求められる事業者となり、三豊市、香川県の地域資源を生活者に届けたいです。

“みとよのみ”

三豊市認定の地域産品ブランドで、①三豊生まれ、②実りのエキスパート、③未来づくりに貢献をコンセプトに、三豊の温暖な気候や豊かな風土で育まれた多彩な農林水産物を素材として生み出された優れた産品を認定する制度です。

オススメの場所は？

百歳書店
 父母ヶ浜にあるお店です。三豊市内外の地域産品のほか、生産者・販売者それぞれのストーリーが記された本を置いています。店主・今川さんの“100年後もこの地域を残したい”という想いが込められたお店です。この地域ならではの商品に出会い、海を眺めながらさわやかな気持ちになれる時間が楽しめます。





PROFILE
大阪府出身。
前職ではカフェの運営に携わる。
今後、自分のお店をオープンする
ために準備中。ヤギと仲良し。

[三木町 地域おこし協力隊] 芳田 裕美 Yoshida Hiromi

めるのではなく、まずは地域を知り、繋がりをづくりながら、地域を応援したいと思いました。

どのような活動をされていますか？

SNSでの情報発信、移住相談、空き家を活用した移住体験施設の整備、地域のにぎわいづくりなど様々です。中でも、三木町南部の中山間地域小養地区で古代米を活用



三木町はどんな町？

人口約2万6千人で、高松市に隣接し、コンパクトな中に豊かな自然と暮らしに必要な施設が整っています。いちごの生産は県内トップクラス。獅子舞が盛んな町です。

なぜ地域おこし協力隊になったのですか？

いつか田舎暮らしをしたい、自分のお店を作りたいという想いがずっとありました。行動に移すきっかけとなったのは、新型コロナウイルス

感染症の流行と世の中の大きな変化です。

できるだけ早く、やりたいことを実現しようと考えるようになり、移住先を探る中で、地域おこし協力隊の制度を知りました。移住して知り合いのいない土地ですぐにお店を始



古代米の田植え&餅つきイベントの様子

した、にぎわいづくりに力を入れています。6月には、古代米の田植え&餅つきイベントを行い、町内外から多くの方が参加してくださいました。昔ながらの田植え作業を体験した後に、昨年収穫した古代米をついてお餅にしたり、地域で採れた山菜や玉ねぎを天ぷらにするなど、小養ならではの体験を楽しんでいたことができました。農業体験を通じて地域の魅力を伝え、それが食への関心や学びにも繋がればと考えています。

今後の目標は？

宿泊施設と飲食店をオープンする予定です。農業体験や移住体験の場

を提供し、人と地域を繋ぐきっかけを作りたいです。古代米プロジェクトでイベントを開催する中で、農業に触れる機会、世代を問わずに交流できる機会を作る必要性を実感しています。もっと多くの人に、田畑での感動や楽しさを知ってもらったり、三木町での暮らしを気軽に体験してもらい、地域の人と交流できる場所に使いたいです。

また、ゆくゆくは地域の資源でもある農業を未来に繋ぐ活動をしたいと思っています。農業に興味はあっても、資金面や販路など、新しく始めるには高いハードルがあります。兼業や小規模でもチャレンジできる環境を作り、次世代のサポートをしていきたいです。

活動地のおすすめの場所は？

虹の滝(こうのたき)

小養の虹の滝は、新さぬき百景になっている景勝地。キャンプ場もあり、夏は川遊びに来る家族連れでにぎわいます。紅葉も美しく、1年を通じて何度も訪れたい癒しの場所です。





土庄町
TONOSHOCHO

[土庄町 地域おこし協力隊] 児戸 源太 Koto Genta

PROFILE

小豆島土庄町出身。
酪農家で約5年働き、技術などを学ぶ。

土庄町はどんな町？

人口約1万2千人。手延べそうめん、オリーブ、小豆島オリーブ牛などが名産で、エンジェルロードやお猿の国などの観光地があります。離島ですが、お店が揃っているのので便利なところですよ。

なぜ地域おこし協力隊になったのですか？

出身地である土庄町で地場産業に関わりたいたいと思い、名産の小豆島オリーブ牛を育てる畜産業をしようと思った。まずは技術を取得するため、県内で育成に力を入れていた



小豆島オリーブ牛とは
出荷の2か月以上前から、
200g以上のオリーブが含まれたエサを与えた牛のことです。

酪農家さんへ就職しました。そこで、約5年間、資格や免許の取得、技術の習得を行った後、タイミンクよく土庄町で畜産振興をミッションとする協力隊の募集があり、土庄町地域おこし協力隊になりました。

どのような活動をされていますか？

現在は、豊島・小豊島を含む土庄町内で5軒の農家さんと契約し、牛の世話をしたり、研修を受けたりしています。世間一般には、畜産は大変だというイメージをもたれているかもしれませんが、確かに朝6時と夕方16時の餌やりは、休みの無い毎日の業務ですが、その間の時間は割と自由に動いています。協力隊卒業後の独立に向けて、そうした時間に農作業や重機免許の取得などの活動を行っています。

また、様々なイベントで、小豆島オリーブ牛の試食会などを開き、小豆島オリーブ牛の認知度向上や購買へつなげる活動も行っています。

今後の活動・目標は何ですか？

任期3年目の現在は、協力隊卒業後に畜産農家として独立することが目標です。畜産業は高齢化に加えて、

新たな担い手不足が深刻化しているため、スマート農業の導入をもっと進めていきたいと思っています。例えば、牛の健康管理をやすくするために、牛にセンサーを取り付けた

り、昼夜問わず1週間掛かり切りだったお産のタイミンクを知らせてくれる機械を導入したりしています。こうした取組みは、牛の世話をを行う農家さんの拘束時間の短縮や負担軽減

に繋がっています。今後も地域おこし協力隊で培った経験を活かしながら行政と農家さんの間に入り、スマート農業を推進していきたいと思っています。



農林水産課の担当職員と話す様子



活動の楽しみは？

牛を眺めるのが1番の癒しであり、楽しみです。牛にも個性があり、見ている飽きません！観察することで、牛の状態を知ることができ、仕事にも繋がっています。

地域おこし協力隊 OBOGを訪ねて

香川県三豊市

偶然が引き寄せたミラクル

三豊市の山下市長は、県議時代（2011年4月〜2017年11月香川県議会議員。2017年12月から三豊市長。）から薬用作物栽培の推進に力を入れて取り組まれていました。日本一小さな香川県では、質の良い農産物を生産しても、知名度を得るには時間がかかり、十分な供給量を確保するのは難しい面がありますが、薬用作物栽培であれば、少ない生産者で取り組むことができ、厳しい農業の活性化につながると、市長は考えられていました。

しかし、思うような栽培が出来ず栽培者も増えない現状があり、地域として打開策を模索していました。そうした時に、瀬戸内に興味を持ち、新たな人生探しをしていた定年目前の漢方薬メーカー勤務の私と三豊市の出会いがありました。

当時、営業職として必要な生薬の知識はありましたが「栽培」につい



高畠 正彦さん

Takahata Masahiko

三豊市では、ミシマサイコ、ヤマトトウキ、キジツの薬用作物栽培のサポートを行っています。協力隊赴任時は2軒だった薬用作物栽培農家は3年目に34軒となり、今春には60軒になりました。

1959年東京生まれ。協力隊の前職は漢方薬メーカーに勤務、約37年間営業、営業管理業務に従事。三豊市の地域おこし協力隊として薬用作物栽培の普及拡大に従事した後、現在は三豊市の地域プロジェクトマネージャーとして事業を継続中。



山下市長と。当時から続く関係の良さが伝わってきます

ては門外漢。しかし、これも何かのご縁と思い、薬用作物栽培の普及拡大をミッションとする地域おこし協力隊として、三豊市に移住しました。協力隊卒業後も地域プロジェクトマネージャーとして薬用作物栽培の普及拡大の活動を続けています。

活動を通して
見えてきた課題は何ですか？

協力隊として着任した直後から、畑と生産者を最優先した土壌の適不適を訪問、調査し、作る側から現状把握に努めました。

これまでは原料を仕入れるメーカー目線でしか薬用作物栽培を見聞

きしたことがなく、生産・販売側の農家さんの立場で薬用作物栽培がどう位置付けられているのかを知りませんでした。現状把握によって、薬用作物栽培の開始から収穫までの各プロセスに応じた情報提供や、背景を含めた説明ができておらず、買い取り先との関係が希薄であることに気づき、その解決に取り組みました。

また、農地は有り余っているのに使える農地が少ない、農地を引き継いだけども農地の管理方法が分からない、高齢で農業ができない、農地を売りたい用途で使いたい法的規制でできないなど、農地を「お荷物」と思っている人が多くいることも分かりました。行政側も、今ある農地

をこれ以上減らさず守る有効な方策が見出せない現状にあり、香川県のみならず、全国的にも難しい課題だと感じています。

薬用作物栽培を通して
地域でどういった役割を
果たしていますか？

漢方薬や漢方医学の考え方が大好きで自身も信頼して服用しています。全ての人に漢方ファンになって欲しいとは思いませんが、お世話になった漢方に少しでも恩返しできればと、興味・関心を持ってもらう様々な活動を行なっています。

漢方薬の原材料になる薬用作物栽培を題材にした小学生向けの薬草授業や、公民館での講演などを通して、地域の方に生薬や漢方の考え方を正しく伝え、親しんでもらっています。地域の高校生と協働して、志々島での除虫菊定植や、高校で育てた苗を地元小学校にバトンタッチするリレー栽培も実施しました。薬用作物試験栽培の継続成果発表会で地元の高校生が香川

現役の協力隊員や、これから協力隊になろうと
思っている方にアドバイスを！

大切なのは「行動して人を得ること」です。人生の大ピンチに出くわしても、周囲を俯瞰すると、見守り助けてくれる人が必ずいます。常に幅広い目線で、相手の「興味ポイント」を見つけると、自ずと「人を得る」チャンスが格段に増えます。相手に対し苦手意識を持つと、その相手に伝わるので大敵ですよ！面白そうなモノやコト、そして人に興味を持って、聞いてみたい！教えて欲しい！ポイントを沢山見つけ、行動して人を得てください。



農家さんとのコミュニケーションを通して現場の中で答えを共に考えます

の講義や、公民館での講演などを通して、地域の方に生薬や漢方の考え方を正しく伝え、親しんでもらっています。地域の高校生と協働して、志々島での除虫菊定植や、高校で育てた苗を地元小学校にバトンタッチするリレー栽培も実施しました。薬用作物試験栽培の継続成果発表会で地元の高校生が香川



すくすく育った薬草畑（ミシマサイコ）

県の代表になったことは、嬉しいサプライズでした。

買い取り先と生産者は直接、取引を行うので、技術さえあれば栽培が継続できます。そのため、薬草を栽培している生産者には「栽培の腕を磨いて下さい。」と日々お伝えしています。栽培を止める人もいる中で、継続的に新規栽培者の開拓を行い、全体の生産者数を維持拡大していきたいと思えます。一人でも多くの方に栽培を続けてもらうため、毎日農家さんを回りながら、それぞれの畑に役立つ情報をお届けし、生産者と共に考えていく継続的な情報提供や栽培のフォローを行っています。

個人的には、ペットと一緒に暮らせる終の棲を見つけて、ゴールデンレトリバーと共に暮らしたいと思っています。

五名自慢のジビエ料理。イノシシ肉を使ったオムライス



炭焼きなど、盛りだくさんのことを学び、研修後の現在は、習得した知識や技能を活かして活動しています。

五名地区の魅力

私の住む五名地区は、星が綺麗で、トトロが住んでいそうな里山の風景が広がっています。昭和の雰囲気を感じられる、どこか懐かしく居心地の良い場所です。1955年（昭和30年）ごろまで焼き木や炭を生産する産業が盛んで、人口の半分以上は臭みがなく、ジビエ料理を通して

移住者が多いのですが、子どもの数が少ないのが課題です。五名地区には小中学校がなく、子どもたちは山のおもとまでスクールバ

五名地区の課題

「五名ふるさとの家」にあるカフェ内でジビエ料理を味わうことができますので、是非召し上がってください。



大量の薪を乾燥しています

併せて、沖縄県の西表島でのガイド経験を活かして、「星空ツアー」を開催し、ドラム缶による炭焼き体験や焚き火を楽しんでもらうことも計画中です。里山で過ごすことで、新たな発見と癒しの体験を提供できればと思っています。今にも降ってきそうな星空を眺めながら、静かな空間でマインドリセットできること間違いなしです。そうした新しい取組みを行いつつ、これからの地域の草刈りや成長した樹木整備など、地域に役立

これからの暮らしと将来像

最近、薪ストーブとキャンプの市場が広がったことで、五名の薪や炭の需要も増えてきました。「五名ふるさとの家」裏の広場に、手ぶらでお越しただいただいても十分楽しむことができるキャンプ場をつくらうと計画しています。

季節を感じる事ができます。鹿とイノシシを中心に、年間1000頭ほど取り扱っています。鹿は春に新芽を食べて夏に美味しくなり、イノシシは秋にドングリや栗を食べて、冬に甘く脂肪ののった肉になります。

五名での楽しみは？

お盆の「ふるさとまつり」と初冬の「いのしし祭り」がオスイベントです。関係人口を増やすためのフリーマーケットなども企画しています。春のフキノトウの花や、タラの芽など、いろいろな植物が新芽、新緑、開花する様に、美味しい栗、ジビエ、星空等が五名の魅力、楽しみです。



つ活動を引き続き行っていきたくと思っています。

地域をつなぐ

香川県のローカルを導く人



香川県 東かがわ市

戸井 裕孝さん

Toi Hirotaka

「香川の自然や山のことを究めたい」東かがわ市にある産直カフェ「五名ふるさとの家」に併設している薪ステーションで活動中。沖縄県西表島でのガイド経験をきっかけに、香川県海ゴミリーダーとして海洋の環境保全にも携わっています。

香川県高松市出身。
トイトイ林業代表、里山ディスカバーツアー代表
五名薪ステーション責任者
香川県里海ガイド
香川県海ゴミリーダー
Instagramアカウント「toytoy0035」 HP「五名の薪」



広葉樹が多く残る五名地区への移住のきっかけ

日本の山の特徴は、コナラやクスギ等の汎用性の高い広葉樹が弥生時代ごろから多く残っていることです。大昔（縄文時代）には、燃えにくく腐りにくい特徴がある広葉樹のクリを、住居の柱などに使っていました。



薪割り機でとんとん木を割っていきます

先人たちは、広葉樹の樹木を利用することを目的に知恵を絞って植樹し、計画的に山を作っていました。そのような山がある、五名地区では、里山と産業を守るため、東かがわ市と現在は私も所属する「五名里山を守る会」が共同で出資し、地域おこし協力隊のような「林業研修制度」を導入していました。香川の自然のこと、山のことを究めたいと思っていた私は、この制度を利用して五名地区に移住することにしました。1年弱の研修で、薪割り・草刈り・栗拾い・わな猟・ジビエ肉の解体・



三豊市の田畑



さちさち〜生薬



ハイ、チーズ!

小豆島町の鮮魚店



小豆島町の魚港



東かがわ市
五名の炭・薪



県協カ隊が撮った
フォトコーナー

ヤッぱり、きれいな海!



庵治町の海

県内を回って、
たくさん景色に出会いました。



庵治町の堤防



さぬき市津田の松原



小豆島行きフェリーからの海



三木町 小菘の田植え体験



くるいどるね〜



豊島
檀山展望台からの景色



豊島の海岸



綾川町 西分地区



まんのう町 サニーサイドフィールズ



土庄町の牛舎

さぬき市

左から／北村さん、田中さん、橋本さん

- ① 予算化等の関係上、どうしても対応に時間がかかってしまうことについては、申し訳なく感じています。
- ② 定期的なミーティングを行い、活動状況の報告や取り組みたいことの相談を受けながら、コミュニケーションをとっています。
- ③ 多くの住民と交流しながら、各隊員のノウハウや視点を活かし、柔軟な活動を行っていただいている有難いです。行政とは異なったアプローチで地域との繋がりが生まれています。
- ④ 地域のにぎわいづくりに向けた活動に取り組めるように、相談しながら一緒に頑張っていきたいと思っています。

さぬき市の地域おこし協力隊…
折原隊員、折口隊員、岡本隊員、
多田集落支援員



琴平町

左から／大森さん、森本さん

- ① 隊員のみなさんにはできる限り自由に活動してもらいたいのですが、予算や役所の独特なルールの理解も必要で、それらを説明することが大変です。
- ② ミーティングを定期的実施し、協力隊のみなさんと担当で現在の活動状況等について情報を共有するなど、連絡を密に取り合うことを大切にしています。
- ③ 琴平町を新しい視点で見つめてくれることです。自分たちでは気が付かなかった町の魅力を各隊員がスキルを活かしながら、発信しています。
- ④ せっかく琴平町を選んで来てくれたので、琴平町、香川県を好きになって卒業して行ってほしいです。できるかぎりサポートしていきますので、どんどんチャレンジしてってください！無愛想で人見知りな部分もありますが、気にしないでくださいね笑

琴平町の地域おこし協力隊…
ワン隊員、辻隊員、松原隊員、ヨウ隊員、樋口隊員



善通寺市

高木さん

- ① 隊員の意欲や感性を尊重しつつ、組織的なルールや政策と整合させていく調整作業です。
- ② 所属長や上層部の職員に対して地域おこし協力隊の必要性など、基本的かつ重要なことを繰り返し説明し、理解を求め、隊員に対しても、組織上のことを説明し、相互調整をしています。
- ③ 協力隊の皆さんの活躍を見るたび、いつも良かったと思っています！
- ④ 間違いなく協力隊の活動によって、市が活気づいています!! 引き続き、協力隊のみなさんが与えられたミッションを遂行しやすいようサポートしていきたいと思っています。

善通寺市の地域おこし協力隊…
中川隊員、臼井隊員、福岡隊員



坂出市

左から／関さん、吉原さん

- ① 坂出市で初めての地域おこし協力隊になった杉山さんが何に困り、どういったサポートを必要としているのか気にかけています。
- ② 週に1回、打合せの時間を設け、活動に関する報告以外に、今後やってみたいこと、不安に感じていることなど、ざっくばらんに話していただけるよう、努めています。
- ③ 市職員とは異なった視点から、様々な意見をいただけるので、ありがたいです。
- ④ 杉山さんと一緒に、坂出の魅力を積極的にPRしていきたいです！

坂出市の地域おこし協力隊…
杉山隊員



ゴレンジャー

左上から／中村さん、三枝さん
左下から／木村さん、須藤さん、
木下さん



ニレンジャー
左から／山本さん、九畠さん

土庄町

上から／ゴレンジャー、ニレンジャー

- ① 地域おこし協力隊としていかにスムーズに活動できるか、そして、移住から定住につなげていけるかを各隊員のやりたいことや個性、状況に応じて対応していくことです。
- ② お互いの意思疎通を大事にコミュニケーションを取り、サポートしていくよう心がけています。
- ③ めちゃめちゃあります! 思いもつかなかったアイデアやその行動力によって大小問わずいろんな変化があり、本当によかったと思います。
- ④ 土庄町の地域おこし協力隊になって本当に良かったと思えるように一緒に頑張っていきましょう! 頼りないところもありますが、よろしくをお願いします!

土庄町の地域おこし協力隊…

土庄町 : 児戸隊員、小川隊員、森隊員、西川隊員、
佐藤隊員、服部隊員、堀川隊員、今泉隊員
土庄町豊島 : 中口隊員、大下隊員、清水隊員

復刻版!

行政担当者のホンネ。

協力隊と二人三脚で地域を盛り上げる

日頃からお互いに協力をし合いながら地域活動に向き合っている行政職員と地域おこし協力隊ですが、なかなかホンネが言えないことも。今回は、さぬきの輪 T.M.E.S.S 号で特集した「行政担当者のホンネ。」の復刻版として、普段あまり表に出ない行政職員にスポットをあて、あれこれ質問してみました!

質問

- ① 地域おこし協力隊の担当者として大変なことはありますか?
- ② ①に対してどのように対応しようかと日々取り組んでいらっしゃいますか?
- ③ 協力隊を導入して良かったと思うことはありますか?
- ④ 最後に一言お願いします!

KATSUDOU-MAP

地域おこし協力隊員の活動場所

※2023年8月1日現在 51名



あとがき

今回は一次産業をテーマに、協力隊員を紹介しました。また、前回よりもページ数を増やし、より多くの方を紹介できるようにしました。さぬきの輪TIMESを通じて、各隊員の活動や想いを知っていただけたら嬉しいです。取材にご協力いただいた皆様、写真撮影・執筆・挿絵・デザイン等にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

さぬきの輪の活動

香川県では、活動報告会や研修、交流会などを通じて協力隊員同士や行政担当者、協力隊のOB・OGとのネットワーク形成を図っています。

活動が地域から学ぶ

さぬきの輪の集い

自らの活動地域を超え、定期的に県内各地の視察や研修を行う「さぬきの輪の集い」。現役隊員が活躍する場所を訪ね、活動内容を学び、意見交換を行い、自治体担当者も交えて様々な活動のヒントを互いに共有し合います。



先輩から学ぶ

OB・OGとのつながり

香川県内でも増えてきた協力隊OB・OG。任期後も今まで築いてきたネットワークを活かせるよう新旧協力隊の輪を広げています。頼りになる先輩方とのつながりを大切にしています。

情報発信

県内協力隊員の活動を冊子やWebなどで積極的に情報発信しています。



その他の見どころ

他県の協力隊やネットワーク組織と連携を図り、情報交換を行っています。

地域おこし協力隊
募集情報も掲載!

地域おこし協力隊
ポータルサイト

さぬきの輪

香川県の地域おこし協力隊情報はコチラ

X

f

Instagram

ローカルライフを
始めたい!!

かがわ暮らし

トカイナかがわ!

香川県に移住をお考えの皆さまに

X

f

移住フェア
などの情報を
GET!

香川県の地域おこし協力隊が
紹介したい香川県のモノ・コト

ひまわり

香川県では、切り花用のひまわりが多く栽培されており、2022年には約157万本が生産されました。

主産地は、三豊市ですが、県内各地で栽培されています。

また、まんのう町仲南地区もひまわりの産地として知られ、ここでは採油用のひまわりが栽培されています。

空に向かって、真っすぐと伸びるひまわりは、見ている人に元気を与えます。

協力隊員たちが、活動で蒔いた地域づくりの種も、ひまわりのように、高く真っすぐと伸び、それぞれの地域の未来に大きな花を咲かすと信じています。



香川県 地域おこし協力隊
絵・文：香川 希